

国語 第3学年 れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）第3学年下巻の、読むこと（説明文）と書くことを組み合わせた単元。単元名・教材名・配当時間数は同社の年間指導計画例による。他社の教科書では教材が違うので、説明文の事例の挙げ方を読み、それを生かして説明する文章を書く単元に置き換える。段落の数と事例の数、段落の番号は使う教科書の本文で確かめる。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、説明文を読む時に、段落の初めの文など中心となる文を見付け、その文を手がかりに、事例がどんな順序で並んでいるか、なぜその順序なのかを説明できる。そのうえで、自分が選んだ食べ物について調べたことをカードに書いて分類し、はじめ・中・終わりの組み立てで、中の事例を理由のある順序に並べた説明の文章を書ける。読む学習で見付けた工夫を、書く学習で自分の組み立ての理由として言えることが、この単元の到達点である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(2)イ	イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(1)イ	イ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(1)ウ	ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約すること。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(3)オ	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。
〔第3学年及び第4学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。
〔第3学年及び第4学年〕C読むこと(2)ア	ア 記録や報告などの文章を読み、文章の一部を引用して、分かったことや考えたことを説明したり、意見を述べたりする活動。
〔第3学年及び第4学年〕B書くこと(2)ア	ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。
〔第3学年及び第4学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(2)	(2) 第2の各学年の内容の指導については、必要に応じて当該学年より前の学年において初歩的な形で取り上げたり、その後の学年で程度を高めて取り上げたりするなどして、弾力的に指導すること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。

単元の目標

- (1) 比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方を理解し使う。幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付く。(〔知識及び技能〕(2)イ・(3)オ)
- (2) 目的を意識して、中心となる語や文を見付ける(読むこと C(1)ウ)。書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考える(書くこと B(1)イ)。
- (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(第3学年及び第4学年の目標(3))

評価規準（3観点）

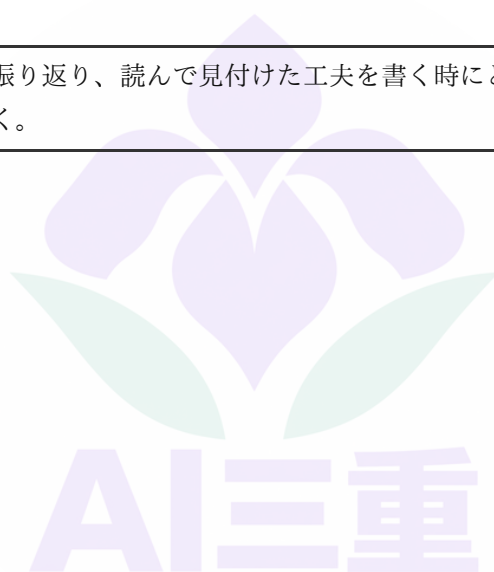
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比較や分類の仕方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) ②幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ)	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。(C(1)ウ) ②「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)	①進んで、中心となる語や文を見付けたり、段落相互の関係に注意して文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって、説明の工夫を生かして食べ物について説明する文章を書こうとしている。

単元の流れ

全12時間（読むこと6時間・書くこと6時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（3年）の配当による。年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第3学年で年間245単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○大豆から作られる食べ物で知っている物を出し合う。 ○範読を聞き、初めて知ったことを書く。 ○学習課題「説明の工夫を見つけて、食べ物のひみつを教える文章を書こう」を決め、学習計画を立てる。	態①（発言・ノート）
第2次	2	○文章を「はじめ」「中」「終わり」に分け、話題と国分さんの考えが書かれている所を確かめる。	
	3	○「中」の段落ごとに中心となる文に線を引く。 ○事例を表（段落・工夫・食品・手の加え方）に整理する。	知①（表）
	4 （本時）	○事例がどのような順序で並んでいるかを、中心となる文と表を基に考え、国分さんがその順序にした理由を話し合う。	思①（ノート）
	5	○見付けた説明の工夫（段落の初めの文、事例の順序、つながり言葉、写真）をまとめ、自分の文章に使いたい工夫を選ぶ。	思①（ノート）
	6	○食べ物について書かれた本を読み、初めて知ったことと説明の仕方について感想を伝え合う。	知②（読書記録・発言）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	7	○説明する食べ物を選び、学習のめあてと進め方を確かめる。 ○選んだ食べ物について、知っていることと調べたいことを書き出す。	
	8	○本や事典で調べ、分かったことをカードに書き、同じ工夫の物どうしに分類して表に整理する。	知①（カード・表）
	9	○はじめ・中・終わりの組み立てと、中の事例の順序を考え、組み立て表に書く。	思②（組み立て表）
	10	○組み立て表に沿って文章を書き、読み返して間違いを直す。	思②（文章） 態①（文章の見直し）
	11	○書いた文章をグループで読み合い、書き方と内容のよいところを伝え合う。	
	12	○単元の学習を振り返り、読んで見付けた工夫を書く時にどう使ったかを書く。	態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：「中」の事例の並べ方を、段落の中心となる文と事例の表を基に考え、国分さんがその順序にした理由を、中心となる文の言葉を挙げて説明できる。(C(1)ウ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時の表（段落・工夫・食品・手の加え方）を見て、「中」の事例を確かめる。 2 本時の問いをつかむ。 ○「国分さんは、なぜこの順序で事例を並べたのでしょうか」 【めあて】中心となる文をくらべて、事例のならべ方のひみつを見つけよう。 〈予想される児童の反応〉 ・大豆を食べる工夫がいくつも書いてあった。 ・どの順序で書いてもいいのではないか。 ・順序には理由がありそう。	・前時の表を黒板に貼る。段落の番号は使う教科書に合わせて先生が書き入れる。 ・単元の初めに決めた読む目的（自分が書く文章で事例をどう並べるかを決める）を、めあての横に書いておく。
展開 (分)	3 一人で、「中」の段落ごとの中心となる文を読み返し、順序を表す言葉と、工夫を表す言葉に線を引く。 ○「段落の初めの文で、順序が分かる言葉はどれですか。工夫を表す言葉はどれですか」 4 事例の順序を入れ替えた表と比べ、どちらが読み手に分かりやすいかを考える。 ○「もし、この段落をいちばん初めにしたら、読む人にはどう伝わりますか」 5 ペアで、並べ方の理由を、線を引いた言葉を挙げて説明し合う。 6 全体で理由を出し合い、事例の並べ方の決まりをまとめる。 〈予想される児童の反応〉 ・段落の初めの文に、順序を表す言葉がある。 ・大豆だと分かりやすい物から、分かりにくい物の順になっている。 ・手間がかからない物から、手間がかかる物の順になっている。 ・身近な物から先に書いてある。 ・初めに分かりにくい物を書くと、大豆からできていると思えない。 ・分かりやすい物から読むと、次の物も大豆なのかと驚く。	・線を引く前に、「中心となる文は、その段落でいちばん伝えたいことが書いてある文」と確かめる。 ・順序を入れ替えた表は先生が作って配る。事例の中身は変えず、順序だけを入れ替える。 ・理由が言えない子には、表の「手の加え方」の欄を上から指でたどらせ、「上の物と下の物で何が違うか」と聞く。 ・「分かりやすいから」で止まる発言には「どの言葉から、そう言えるか」と返し、線を引いた言葉を挙げさせる。 ・読むのが苦手な子には、「中」の段落の初めの文だけを抜き出したカード（先生が教科書から書き入れる）を渡す。 ・早く終わった子には、「終わり」に書かれた国分さんの考えと事例の順序がどうつながるかを考えさせる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ （分）	7 国分さんの並べ方と、自分が書く文章で使いたい並べ方を、ノートに書く。 （型）「国分さんは、事例を…から…の順にならべている。それは、…という言葉から分かる。わたしは、自分の文章で…の順にならべたい」 【まとめ】事例は、読む人に分かりやすい順にならべてある。段落の初めの文をくらべると、そのならべ方が分かる。 8 振り返りを書く。	・まとめは子どもの言葉で作り、上の文は例として扱う。 ・振り返りは「見付けた工夫」と「自分の文章で使いたいこと」の二つで書かせる。 ・次時は、見付けた説明の工夫をまとめることを伝える。 ◎思① 目的を意識して、中心となる語や文を見付けている。（ノート）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ書く。右端に日付・題名・めあて、その横に単元の読む目的（自分が書く文章で事例をどう並べるか）。中央に前時の表を拡大して貼り、事例の段落ごとに中心となる文のカード（先生が教科書から書き入れる）を順に並べ、順序を表す言葉と工夫を表す言葉に色を分けて線を引く。その左に順序を入れ替えた表を貼り、比べて出た考えを矢印でつなぐ。左端にまとめと、ノートに書く文の型。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、中心となる文を「長い文」「大事な文」で選び、段落で伝えたいことと結び付けない。手当ては、「この段落は何について書いてあるか」を一言で言わせてから、その一言が入っている文を探させること（C(1)ウ）。二つ目、事例の順序を「書いてある順」としか言えない。手当ては、先生が順序を入れ替えた表を作って比べさせ、違いから理由を言わせること。三つ目、表に整理する時に食品の名前だけを書き、工夫や手の加え方を書かない。手当ては、表の欄の見出しを先に全員で確かめ、一行目を全体で書いてから一人で進めさせること（(2)イ）。四つ目、書く学習で、調べたことを全部書こうとして、中の段落が長くなり、工夫ごとに分かれぬ。手当ては、調べたことをカードに一枚ずつ書かせ、同じ工夫のカードをまとめてから段落にさせること（B(1)イ）。段落の役割は〔知識及び技能〕(1)カで扱う事柄なので、ここで「一つの段落には一つの工夫」と確かめる。五つ目、説明する食べ物についての本が見付からない。手当ては、学校図書館の司書と相談し、食べ物の本を単元の前にそろえておくこと（第3の2(3)）。

プリントの案

事例の表（読むことと書くことで同じ形を使う）

横に「段落」「工夫（中心となる文の言葉）」「食品」「手の加え方」の4列。読む学習では「中」の事例を一段落一行で書く。書く学習では自分が調べた食べ物の事例を同じ形で書く。比較や分類の仕方（〔知識及び技能〕(2)イ）に合わせた。

本時のワークシート（事例の並べ方）

上に「中」の段落ごとの中心となる文を書き写す枠（文は先生が教科書から書き入れるか、子どもが書き写す）。中ほどに、順序を入れ替えた表と比べて気付いたことを書く枠。下に「国分さんは、事例を…から…の順にならべている。それは、…という言葉から分かる。わたしは、自分の文章で…の順にならべたい」の型。C(1)ウに合わせた。

調べたことのカードと組み立て表

カードは一枚に事柄を一つ（食品の名前・工夫・調べた本の名前）。組み立て表は「はじめ（話題）」「中（事例を順に）」「終わり（まとめと自分の考え）」の三つの枠で、中の枠にカードを並べて貼り、並べた理由を書く欄を付ける。B(1)イに合わせた。

振り返りカード

「見付けた工夫」「自分の文章で使いたいこと（使ったこと）」の二つの枠。第4時と第12時で同じカードを使い、使いたいと書いた工夫を実際に使えたかを比べられるようにする。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価基準の文末と3観点の形、主体的に学習に取り組む態度の評価基準の作り方（粘り強さ・学習の調整・重点とする内容・言語活動）（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／光村図書出版『国語』（令和6年度版）年間指導計画例（3年）「3年下巻」の本単元の行。単元名・教材名・配当時数（読むこと6時間・書くこと6時間）と指導目標の指導事項の出典。指導計画の文は写していない（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/7ff6b471-db8d-470a-968a-a9899624022a/368）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画のページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306・第2学年315・第3学年245・第4学年245）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／三重県で公開されている小学校の学習指導案の形（見出しの順と表の列）に合わせた。中身は写していない。例：三重県総合教育センター掲載の実践事例集（令和7年度）（https://www.mpec.jp/wp-content/uploads/2026/03/r7_ICT_English_case_studies.pdf）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

